

福島薬剤師会 「令和元年度 第1回認知症研修会」レポート

日時：令和1年12月18日 19:15~21:00

場所：福島市保健センター 5階「大会議室」

研修委員 安西亮介

【講演・グループ討議】

『認知症早期発見のための、地域包括支援センターとの連携

～スムーズな連携を目指した意見交換～』

講師：エーザイ株式会社 hhcソリューション本部

ソリューション地域包括推進部 馬瀬 八尋様

ケーススタディ

- | |
|--|
| <p>1 認知症のご本人さんと娘さんが来局されました。
(ご本人は、認知症の診断を受けていません)</p> <p>2 ご本人は薬局でトイレの場所が分からなかったり、トイレの水を出しっぱなしにする行動がありました。</p> <p>3 このような行動はご自宅でも起こっていて、最近は、「夜寝れなくて、夜中に騒ぐ」などの行動も目立つようになり、娘さんも疲れ切っています。</p> |
|--|

グループディスカッション①

この娘さんに、

薬局：どのような状況確認、声掛けをするか？

地域包括支援センター：どのような状況確認、声掛けのポイントがあるか？

家での状況や、他の状況を確認する、夜間以外はどうなのか具体的に

若い時と比べて、いつから始まったか、主治医の見解は？本人はおかしいと思っている？

残薬確認、小銭支払いができるかどうか

同居しているか、独居か、ケアマネはついているかなどの環境確認

今まで相談したことはあるか

「かんばんってください」という言葉は使わず、「相談に乗れることあったら言ってください」と地域包括支援センター等の相談窓口の紹介の声掛け

具体的な行動については、メモを取っておくことをすすめる

薬剤師側も、話してくれているときは話を切らず聞いて話しやすい雰囲気にする

声掛けは、本人いないときに

顔なじみかどうかによって、声のかけ方が違ってくる

グループディスカッション②

地域包括支援センターへ相談する際、

薬局：どのような事前準備が必要か？

地域包括支援センター：どのような事前準備があるとスムーズに連携が進むか？

名前、住所、連絡先、同居者、基礎疾患、かかりつけ医の確認

困っている情報を集める

いつくらいからおかしいのか？服装など

薬局からの希望を明白にする

地域包括支援センターを紹介して、どのようなことが相談できるのかを伝えてあげる。同意をもらえたら紹介する

自分たちでなんとかすると、連絡する許可がもらえない場合もある

わかる範囲でいい⇒地域包括支援センターでは民生委員と連携して情報収集できるので
家族情報は、地域包括支援センターのほうが知っていることも

同居者や、キーパーソンの家族に連絡したいができない⇒地域包括支援センターへ連絡を
薬もらう日に合わせ、地域包括支援センターの人が立ち会ってくれることもある

凶暴性、趣味、性格、好みが分かると会話のきっかけになる

グループディスカッション③

地域包括支援センターに連絡する際に、どのような方法で。どのような情報を伝えればいい？

まずは電話、内容をFAX（文面で残す）

個人情報をどこまで共有できるか

本人に聞いても、介護認定が分からないことがある

本人に同意を必要とはしない

チャート等があると聞き取りしやすい

服薬の確認などから、地域包括支援センターの話にもっていき、本人の意思確認

オレンジカフェなど、そういう場での相談でもいい。地域の総合相談なので、なんでも連絡してもらって大丈夫

認知症初期集中支援チームと協力しての対応もできる

地域包括支援センターのほうから、受診を勧めることもある